

普通期 稲作情報 第2号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

1 生育概況

6月20日～7月20日の平均気温は平年より0.2℃高く、日照時間は7%多く、降水量は27%多くなりました。農林業総合試験場の作況をみると、6月10日移植の夢つくしでは、草丈は平年より14%高く、茎数は平年並で、主稈葉数は0.8葉多くなっています。また、6月20日移植のヒノヒカリでは、草丈は4～5%高く、茎数は5～18%少なく、主稈葉数は0.2～0.5葉多くなっています。梅雨明けは平年より1日早い7月18日でしたが、7月14日発表の向こう1か月の天気予報は、平均気温は平年並または低い確率とともに40%です。降水量は、平年並または多い確率とともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率とともに40%です。

2 水管理

6月10日植「夢つくし」の出穂期は8月10日頃と予想されるため、早急に中干しを終了し、幼穂形成期以降は水を切らないよう十分にかん水してください。6月中下旬植の早生（「元気つくし」「つくしろまん」）、中晩生品種（「ヒノヒカリ」「ツクシホマレ」）は、間断かん水を実施し、有効茎が確保され次第、中干しを開始します。特に「元気つくし」は、稈が伸びると倒伏の懸念があることから、中干し開始時期が遅れないようにしましょう。

中干し終了後から落水期までは、間断かん水又は飽水管理（土が黒く湿った状態）を行い、根を健康に保ちましょう。暑さ対策は根づくりが大事です。幼穂形成期以降の水分不足は登熟障害を起こすので、ほ場が乾き過ぎないようにしてください。

台風襲来時は、茎葉からの蒸散が大きいため深水にしてください。台風通過後も、水稻の水分吸収が盛んになるため、数日間は水が切れないうち注意してください。

3 穂肥

穂肥時期の決め方（6月20日移植のヒノヒカリの例）



7月中旬
ほ場一面一様に濃い緑

7月下旬～
地力窒素の発現が低下し、ほ場に濃いところと薄いところの色ムラができる。穂肥時期は近い。

8月上旬～
ほ場全体が薄くなり、色ムラがなくなる。
この時期に茎をむいて、3～5ミリの幼穂を確認したら穂肥時期

品種別出穂期予想（一般平坦地）

品 種	予想出穂期	穂肥 1 回目	穂肥 2 回目
夢つくし	8 / 11 頃 (6 / 15 植)	7 / 27 頃	
つくしろまん	8 / 22 頃 (6 / 20 植)	8 / 2 頃	
元気つくし	8 / 22 頃 (6 / 20 植)	8 / 2 頃	1 回目から 7 日後
ヒノヒカリ	8 / 28 頃 (6 / 20 植)	8 / 8 頃	
ツクシホマレ	9 / 3 頃 (6 / 20 植)	8 / 11 頃	1 回目から 7 ~ 10 日後

○穂肥施用量は、稲作ごよみを参照してください。
 (葉いもちが多発した場合は、穂肥施用量を減じてください)

4 病害虫防除

(1)補正防除(いもち病) 【常発地では、初発時に必ず防除を行いましょう。】

薬剤名	防除時期	散布量
ビーム粉剤DL	発生初期 (収穫 7 日前まで)	3~4kg/10a
アチーブMC	発生初期 (収穫 14 日前まで)	2000倍
コラトップ粒剤5	葉いもち : 初発10日前~初発時 穂いもち : 出穂30日前~5日前まで	3~4kg/10a

(2)補正防除(紋枯病、ウンカ類)

昨年、紋枯病の発生が多かったほ場では、紋枯病の補正防除を実施しましょう。

8月にトビイロウンカの幼虫が100株当たり100匹以上見られる場合は、補正防除を実施しましょう。

	対象病害虫	薬剤名	防除時期	散布量
粉剤体系	ウンカ類、カメムシ類、紋枯病	アプロードモンカット スタークルF粉剤DL	収穫14日前 まで	3~4kg/10a
液剤体系	ウンカ類 カメムシ類	アプロードスタークル ゾル	収穫7日前 まで	1000倍
液剤体系	紋枯病	モンセレンフロアブル	収穫21日前 まで	1500倍

※粒剤体系については稲作ごよみを参照して下さい。防除時期は上記と同じです。

(3)斑点米カメムシ類の耕種的防除について

畦畔や休耕田のイネ科雑草・牧草等が発生源となりますので、出穂2週間前までに草刈りを行いましょう。

(※出穂直前になってから除草すると、雑草に生育していたカメムシを水田に追いやることになるので、逆効果となります)